

農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱

制定 令和4年12月2日付け4輸国第3859号
農林水産事務次官依命通知

(趣旨)

第1 本事業は、農林水産物・食品の輸出促進に資する施策を一体的かつ総合的に推進することとする。

(通則)

第2 農林水産物・食品輸出促進対策事業費補助金（以下「補助金」という。）の交付については、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号。以下「適正化法施行令」という。）及び農林畜水産業関係補助金等交付規則（昭和31年農林省令第18号。以下「交付規則」という。）に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

(交付の目的)

第3 補助金は、補助事業者が別表1の事業内容に掲げる事業（以下「補助事業」という。）を実施するために必要な経費を補助するものとする。

(事業の内容)

第4 本事業において実施する事業の区分及び内容並びに補助事業者は、別表1に掲げるとおりとする。

(事業の採択)

第5 事業の採択基準については、輸出・国際局長、大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）、農産局長又は水産庁長官が別に定める。

(事業実施計画の提出)

第6 補助事業者は、補助金の交付申請より前に、輸出・国際局長、大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）、消費・安全局長、農産局長又は水産庁長官（以下「輸出・国際局長等」という。）が別に定めるところにより、事業実施計画を作成し、別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分に応じ、それぞれ同表の中欄に掲げる者（以下「事業実施計画調整者」という。）に提出しなければならない。

2 事業実施計画調整者は、その内容を調整することができる。

3 事業実施計画の変更（輸出・国際局長等が別に定める重要なものに限る。）又は中止若しくは廃止については、第1項に準じて行うものとする。

(交付の対象及び補助率)

第7 農林水産大臣（以下「大臣」という。）は、補助事業者が補助事業を実施するために必要な経費のうち、補助金交付の対象として大臣が認める経費（以下「補助対象経費」という。）について、予算の範囲内で補助金を交付する。

2 補助対象経費の区分及びこれに対する補助率は、別表1のとおりとする。

(流用の禁止)

第8 別表1の区分の欄に掲げる事業に係る経費は相互流用してはならない。

(申請手続)

第9 交付規則第2条の大臣が別に定める申請書類に関する事項は、別記様式第1号による交付申請書のとおりとし、補助金の交付を受けようとする者は、前項の交付申請書を、別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる者（以下「交付決定者」という。）に提出しなければならない。

2 補助金の交付を受けようとする者は、前項の申請書を提出するに当たって、当該補助金に係る消費税仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税に相当する額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額と当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）に規定する地方消費税率を乗じて得た金額との合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下同じ。）があり、かつ、その金額が明らかな場合には、これを減額して申請しなければならない。ただし、申請時において当該補助金に係る消費税仕入控除税額が明らかでない場合は、この限りでない。

(交付申請書の提出期限)

第10 交付規則第2条の大臣が別に定める交付申請書の提出期限は、事業実施計画調整者が別に通知する日までとする。

(交付決定の通知)

第11 交付決定者は、第9第1項の規定による交付申請書の提出があったときは、審査の上、補助金を交付すべきものと認めたときは速やかに交付決定を行い、補助事業者に対しその旨を通知するものとする。

2 第9第1項の規定による交付申請書が到達してから当該申請に係る前項による交付決定の通知を行うまでに通常要すべき標準的な期間は、1月とする。

(申請の取下げ)

第12 補助事業者は、第9第1項の規定による交付申請を取り下げようとするときは、第11第1項の規定による交付決定の通知を受けた日から起算して15日以内にその旨を記載した取下書を交付決定者に提出しなければならない。

(契約等)

第13 補助事業者（地方公共団体以外の補助事業者に限る。第2項及び第3項において同じ。）は、補助事業の一部を第三者に委託する場合は、この要綱の各条項を内容とする実施に関する契約を締結し、交付決定者に遅滞なく届け出なければならない。

2 補助事業者は、補助事業を遂行するため、売買、請負その他の契約をする場合は、一般の競争に付さなければならない。ただし、補助事業の運営上、一般の競争に付することが困難又は不適當である場合は、指名競争に付し、又は随意契約によることができる。

3 補助事業者は、前項の契約をしようとする場合は、当該契約に係る入札又は見積り合せ（以下「入札等」という。）に参加しようとする者に対し、別記様式第2号による契約に係る指名停止等に関する申立書の提出を求めることとし、当該申立書の提出のない者については、入札等に参加させてはならない。

(債権譲渡等の禁止)

第14 補助事業者は、第11第1項の規定による交付決定の通知によって生じる権利及び義務の全部又は一部を、交付決定者の承諾を得ずに、第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。

(計画変更、中止又は廃止の承認)

第15 補助事業者は、次の各号のいずれかに該当するときは、あらかじめ別記様式第3号による変更等承認申請書を交付決定者に提出し、その承認を受けなければならない。

(1) 補助対象経費の区分ごとの配分された額を変更しようとするとき。ただし、第16に規定する軽微な変更を除き、補助金額の増額を伴う変更を含む。

(2) 補助事業の内容を変更しようとするとき。ただし、第16に規定する軽微な変更を除く。

(3) 補助事業を中止し、又は廃止しようとするとき。

2 補助事業者は、前項各号に定める場合のほか、補助金額の減額を伴う変更をしようとするときは、前項に準じて交付決定者の承認を受けることができる。

3 交付決定者は、前2項の承認をする場合において、必要に応じ交付決定の内容を変更し、又は条件を付することができる。

(軽微な変更)

第16 交付規則第3条第1号イ及びロの大臣が別に定める軽微な変更は、別表1の重要な変更の欄に掲げる変更以外の変更とする。

(事業遅延の届出)

第17 補助事業者は、補助事業が予定の期間内に完了することができないと見込まれる場合、又は補助事業の遂行が困難となった場合においては、速やかに別記様式第4号による遅延届出書を交付決定者に提出し、その指示を受けなければならない。

2 前項の場合のうち、歳出予算の繰越しを必要とする場合においては、必要事項を記載した繰越承認申請書の提出をもって前項の届出書の提出に代えることができる。

(状況報告)

第18 補助事業者は、補助金の交付決定に係る年度の12月末日現在(各補助事業ごとに別に定める要領において当該補助事業の目的及び内容に応じ報告の期日を定めた場合にあつては、当該期日。)において別記様式第5号により事業遂行状況報告書を作成し、当該年度の1月末日(各補助事業ごとに別に期日を定めた場合にあつては、その翌月の末日。)までに交付決定者に提出しなければならない。ただし、別記様式第6号により概算払請求書を提出した場合は、これをもって事業遂行状況報告書に代えることができるものとする。

2 前項による報告のほか、交付決定者は、事業の円滑な執行を図るため必要があると認めるときは、補助事業者に対して当該補助事業の遂行状況について報告を求めることができる。

(概算払)

第19 補助事業者は、補助金の全部又は一部について概算払を受けようとする場合には、別記様式第6号の概算払請求書を交付決定者及び官署支出官(農林水産省にあつては大臣官房予算課経理調査官、水産庁にあつては水産庁長官、北海道農政事務所及び北陸・東海・近畿・中国四国農政局にあつては総務管理官、東北・関東・九州農政局及び内閣府沖縄総合事務局にあつては総務部長をいう。)に提出しなければならない。

なお、概算払は、予算決算及び会計令(昭和22年勅令第165号)第58条ただし書に基づく財務大臣との協議が調った日以降に、協議が調った範囲で行うものとする。

2 補助事業者は、概算払により間接補助事業に係る補助金の交付を受けた場合においては、当該概算払を受けた補助金の額を遅滞なく間接補助事業者に交付しなければならない。

(実績報告)

第20 交付規則第6条第1項の別に定める実績報告書は、別記様式第7号のとおりとし、補助事業者は、補助事業が完了したとき(第15第1項による廃止の承認があつたときを含む)。

以下同じ。)は、その日から1月を経過した日又は翌年度の4月10日のいずれか早い日(地方公共団体に対し補助金の全額が前金払又は概算払により交付された場合は翌年度の6月10日)までに、実績報告書を交付決定者に提出しなければならない。ただし、別表1の1の(1)及び(4)の事業において、補助事業者に対し補助金等の全額が概算払により交付された場合における実績報告の提出期限は、交付規則第6条第1項ただし書の規定に基づき、補助事業等の完了の日の属する国の会計年度の翌年度の6月10日までとする。

- 2 補助事業者は、補助事業の実施期間内において、国の会計年度が終了したときは、翌年度の4月30日までに別記様式第8号により作成した年度終了実績報告書を交付決定者に提出しなければならない。
- 3 第9第2項ただし書の規定により交付の申請をした補助事業者は、第1項の実績報告書を提出するに当たって、当該補助金に係る消費税仕入控除税額が明らかである場合は、これを補助金額から減額して報告しなければならない。
- 4 第9第2項ただし書の規定により交付の申請をした補助事業者は、第1項の実績報告書を提出した後において、消費税及び地方消費税の申告により当該補助金に係る消費税仕入控除税額が確定した場合には、その金額(前項の規定により減額した場合にあっては、その金額が減じた額を上回る部分の金額)を別記様式第9号の消費税仕入控除税額報告書により速やかに交付決定者に報告するとともに、交付決定者による返還命令を受けてこれを返還しなければならない。

また、当該補助金に係る消費税仕入控除税額が明らかにならない場合又はない場合であっても、その状況等について、補助金の額の確定のあった日の翌年6月30日までに、同様式により交付決定者に報告しなければならない。

(補助金の額の確定等)

- 第21 交付決定者は、第20第1項の規定による報告を受けた場合には、実績報告書等の書類の審査及び必要に応じて現地調査等を行い、その報告に係る補助事業の成果が交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき補助金の額を確定し、補助事業者に通知するものとする。
- 2 交付決定者は、補助事業者に交付すべき補助金の額を確定した場合において、既にその額を超える補助金が交付されているときは、その超える部分の補助金の返還を命ずるものとする。
- 3 前項の補助金の返還期限は、当該命令のなされた日から20日(地方公共団体において当該補助金の返還のための予算措置について議会の承認が必要とされる場合で、かつ、この期限により難しい場合は90日)以内とし、期限内に納付がない場合は、未納に係る金額に対して、その未納に係る期間に応じて年利10.95パーセントの割合で計算した延滞金を徴するものとする。

(海外付加価値税に係る還付金の額の確定における取扱)

- 第22 交付決定者は、日本国外における補助事業の実施に当たり、日本国以外の行政機関により課される付加価値税相当額(以下「海外付加価値税」という。)について補助金を交付する場合であって当該海外付加価値税について還付制度が存在するときは、還付制度の利用について補助事業者に対して検討を求めることができる。
- 2 補助事業者は、補助事業完了時において、海外付加価値税について還付を受けている場合は、第20第1項による実績報告書において、補助金額から減額して報告しなければならない。
- 3 補助事業者は、補助事業完了後に、海外付加価値税について還付を受けた場合には、第20第4項に準じて交付決定者に報告するとともに、交付決定者の返還命令を受けてその一部又は全部を返還しなければならない。

(額の再確定)

- 第23 補助事業者は、第21第1項の規定による額の確定通知を受けた後において、補助事業に関し、違約金、返還金、保険料その他の補助金に代わる収入があったこと等により補助事業に要した経費を減額すべき事情がある場合は、交付決定者に対し当該経費を減額して作成した実績報告書を第20第1項に準じて提出するものとする。
- 2 交付決定者は、前項に基づき実績報告書の提出を受けた場合は、第21第1項に準じて改めて額の確定を行うものとする。
 - 3 第21第2項及び第3項の規定は、前項の場合に準用する。

(交付決定の取消等)

- 第24 交付決定者は、第15第1項第3号の規定による補助事業の中止又は廃止の申請があった場合及び次に掲げる場合には、第11第1項の規定による交付決定の全部若しくは一部を取り消し、又は変更することができる。
- (1) 補助事業者が、法令、本要綱又は法令若しくは本要綱に基づく交付決定者の処分若しくは指示に違反した場合
 - (2) 補助事業者が、補助金を補助事業以外の用途に使用した場合
 - (3) 補助事業者が、補助事業に関して、不正、事務手続の遅延、その他不適当な行為をした場合
 - (4) 間接補助事業者が、間接補助事業の実施に関し法令に違反した場合
 - (5) 間接補助事業者が、間接補助金を間接補助事業以外の用途に使用した場合
 - (6) 交付の決定後生じた事情の変更等により、補助事業の全部又は一部を継続する必要がなくなった場合
- 2 交付決定者は、前項の規定による取消しをした場合において、既に当該取消しに係る部分に対する補助金が交付されているときは、期限を付して当該補助金の全部又は一部の返還を命ずるものとする。
 - 3 交付決定者は、第1項第1号から第3号までの規定による取消しをした場合において、前項の返還を命ずるときは、その命令に係る補助金の受領の日から納付の日までの期限に応じて、年利10.95パーセントの割合で計算した加算金の納付を併せて命ずるものとする。
 - 4 第2項の規定による補助金の返還及び前項の加算金の納付については、第21第3項の規定(括弧書を除く。)を準用する。

(財産の管理等)

- 第25 補助事業者は、補助対象経費(補助事業を他の団体に実施させた場合における対応経費を含む。)により取得し、又は効用の増加した財産(以下「取得財産等」という。)については、補助事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、補助金交付の目的に従って、その効率的運用を図らなければならない。
- 2 取得財産等を処分することにより、収入があり、又はあると見込まれるときは、その収入の全部又は一部を国に納付させることがある。

(財産の処分の制限)

- 第26 取得財産等のうち適正化法施行令第13条第4号の大臣が定める機械及び重要な器具は、1件当たりの取得価格又は効用の増加価格が50万円以上の機械及び器具とする。
- 2 取得財産等のうち適正化法施行令第13条第5号の大臣が定める財産は、牛、馬、豚及びめん羊並びに1件当たりの取得価格又は効用の増加価格が50万円以上のソフトウェアとする。
 - 3 適正化法第22条に定める財産の処分を制限する期間は、交付規則第5条に規定する期間(以下「処分制限期間」という。)とする。
 - 4 補助事業者は、処分制限期間中において、処分を制限された取得財産等を処分しようとする

るときは、あらかじめ交付決定者の承認を受けなければならない。

- 5 前項の承認に当たっては、承認に係る取得財産等の残存価値相当額又は処分により得られた収入の全部又は一部を国に納付することを条件とすることがある。

(収益納付)

第27 補助事業者は、補助事業を実施することにより相当の収益が生じたときは、輸出・国際局長等が別に定めるところにより、その旨を報告しなければならない。

- 2 前項による報告があった場合、その他補助事業者に前項により報告すべき相当の収益を生じたものと輸出・国際局長等が認定したときは、輸出・国際局長等が別に定めるところにより当該収益の一部又は全部を国に納付させることがある。

(補助金の経理)

第28 補助事業者は、補助事業についての帳簿を備え、他の経理と区分して補助事業の収入及び支出を記載し、補助金の使途を明らかにしておかなければならない。

- 2 補助事業者は、前項の収入及び支出について、その支出内容の証拠書類又は証拠物を整備して前項の帳簿とともに補助事業の完了の日の属する年度の翌年度から起算して5年間整備保管しなければならない。
- 3 補助事業者は、取得財産等について当該取得財産等の処分制限期間中、前2項に規定する帳簿等に加え、別記様式第10号の財産管理台帳その他関係書類を整備保管しなければならない。
- 4 前3項及び第29に基づき作成、整備及び保管すべき帳簿、証拠書類、証拠物、台帳及び調書のうち、電磁的記録により作成、整備及び保管が可能なものは、電磁的記録によることができる。

(補助金調書)

第29 補助事業者(地方公共団体に限る。)は、当該補助事業に係る歳入歳出の予算書並びに決算書における計上科目及び科目別計上金額を明らかにするため、別記様式第11号による補助金調書を作成しておかなければならない。

(交付決定額の下限)

第30 交付決定額の下限は、3,500万円とする。ただし、交付決定者が特に必要と認めるもの及び交付先の選定を公募により行うときは、この限りではない。

(電子情報処理組織による申請等)

第31 補助事業者は、第9第1項の規定による交付の申請、第12の規定による申請の取下げ、第15第1項の規定による計画変更、中止又は廃止の申請、第18の規定による状況報告、第19の規定による概算払請求、第20第1項による実績報告、第20第2項による年度終了実績報告、第20第4項による消費税仕入控除税額の確定に伴う報告及び第26第4項の規定による財産の処分の承認申請(以下「交付申請等」という。)については、当該各規定の定めにかかわらず、共通申請サービス(以下「システム」という。)を使用する方法により行うことができる(別表1の1の(1)及び(3)、2、3の(2)、(3)及び(4)のウ、4の(2)、(3)、(4)及び(5)、6の(1)、(2)及び(3)の事業に限る。)。ただし、システムを使用する方法により交付申請等を行う場合において、本要綱に基づき当該交付申請等に添付すべきとされている書類について、当該書類の一部又は全部を書面により提出することを妨げない。

- 2 補助事業者は、前項の規定により交付申請等を行う場合は、本要綱の様式の定めにかかわらず、システムにより提供する様式によるものとする。
- 3 交付決定者は、第1項の規定により交付申請等が行われた補助事業者に対する通知、承認、

指示及び命令については、補助事業者が書面による通知等を受けることをあらかじめ求めた場合を除き、システムを使用する方法によることができる。

- 4 補助事業者が第1項の規定によりシステムを使用する方法により交付申請等を行う場合は、システムのサービス提供者が別に定めるシステムの利用に係る規約に従わなければならない。

(間接補助金交付の際付すべき条件等)

第32 補助事業者は、間接補助事業者に補助金を交付するときは、本要綱第8、第13、第15から第18まで、第20、第22から第25まで、第27及び第28並びに第30の規定に準ずる条件並びに次の各号に掲げる条件を付さなければならない。

- (1) 適正化法、適正化法施行令、交付規則及び本要綱に従うべきこと。
- (2) 間接補助事業により取得し、又は効用の増加した財産のうち1件当たりの取得価格50万円以上のものについて、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号。以下「大蔵省令」という。）に定められている耐用年数に相当する期間（ただし、大蔵省令に期間の定めがない財産については期間の定めなく。）においては、補助事業者の承認を受けずに、補助金交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、又は担保に供してはならないこと。
- (3) 前号による補助事業者の承認に際し、承認に係る取得財産等の残存価値相当額又は処分により得られた収入の全部又は一部を補助事業者に納付させることがあること。

2 補助事業者は、地方公共団体以外の間接補助事業者に補助金を交付するときは、間接補助事業者に対し、前項に定めるもののほか、次に掲げる条件を付さなければならない。

- (1) 間接補助事業者は、間接補助事業を遂行するため、売買、請負その他の契約をする場合は、一般の競争に付さなければならない。ただし、間接補助事業の運営上、一般の競争に付すことが困難又は不相当である場合は、指名競争に付し、又は随意契約によることができる。
- (2) 間接補助事業者は、前号により契約をしようとする場合は、入札等に参加しようとする者に対し、別記様式第2号による契約に係る指名停止等に関する申立書の提出を求め、当該申立書の提出のない者については、入札等に参加させてはならない。

3 補助事業者は、地方公共団体である間接補助事業者に補助金を交付するときは、間接補助事業者に対し、第1項に定めるもののほか、当該間接補助事業に係る歳入歳出の予算書並びに決算書における計上科目及び科目別計上金額を明らかにするため、別記様式第11号による補助金調書を作成しておくべきことを条件として付さなければならない。

4 補助事業者は、間接補助事業者が間接補助事業により取得し、又は効用の増加した財産について、その実態を充分把握するように努め、当該財産が適正に管理運営されるよう指導しなければならない。

5 補助事業者は、第1項第2号により承認をしようとする場合は、あらかじめ交付決定者の承認を受けてから承認を与えなければならない。

6 補助事業者は、第1項第3号により間接補助事業者から納付を受けた額の国庫補助金相当額を国に納付しなければならない。

7 第1項及び前項の規定にかかわらず、前項の規定その他の国庫納付に関する規定に基づき、取得財産等の取得価格の国庫補助金相当額の全部を国に納付したと認められる場合は、第1項及び前項の規定は当該取得財産等については適用しない。

8 補助事業者は、間接補助事業に関して、間接補助事業者から補助金の返還又は返納を受けた場合は、当該補助金の国庫補助金相当額を国に返還しなければならない。

(事業実施状況の報告)

第33 補助事業者は、本事業の実施状況等について、輸出・国際局長等が別に定めるところにより、事業実施状況報告書を作成し、事業実施計画調整者に報告するものとする。

(指導等)

第34 事業実施計画調整者は、本事業の適正な執行を確保するため、補助事業者に対し必要な報告を求め、又は指導を行うことができるものとする。

(委任)

第35 本事業の実施については、この要綱に定めるもののほか、輸出・国際局長等が別に定めるところによるものとする。

附 則

- 1 この要綱は、令和4年12月2日から施行する。
- 2 この要綱の施行に伴い、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付要綱（平成28年10月11日付け28食産第2771号農林水産事務次官依命通知。以下「交付要綱」という。）及び農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業実施要綱（平成28年10月11日付け28食産第2762号農林水産事務次官依命通知。以下「実施要綱」という。）は廃止する。
- 3 2による廃止前の交付要綱及び実施要綱に基づく事業については、なお従前の例による。

別表1（第4、第7、第8及び第16関係）

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
<p>農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業</p> <p>1 マーケットイン輸出ビジネス拡大緊急支援事業</p> <p>(1) 戦略的輸出拡大サポート緊急対策事業</p>	<p>輸出額5兆円目標の実現に向け、輸出支援プラットフォームの活動として実施される独立行政法人日本貿易振興機構による輸出事業者サポート、日本食品海外プロモーションセンターによる日本産品の重点的・戦略的プロモーション等を支援するため、以下の1及び2の事業を実施し、輸出の体制強化を加速化する。</p> <p>1 輸出事業者サポート強化事業</p> <p>(1) 商談支援・事業者サポート体制の強化</p> <p>ポストコロナを見据え、海外への新たな販路開拓・販路拡大に取り組む農林漁業者等と有望なバイヤー等との商流構築を図るため、海外で開催される有望な国際見本市へジャパンパビリオンを出展するとともに、国内外でバイヤーやディストリビューター等との商談会等を開催する。特に都道府県における従来の個別のプロモーション等の取組みの連携を促す支援等、輸出に意欲的な事業者の主体的活動を支援するため、専門家による伴走支</p>	<p>独立行政法人日本貿易振興機構が本要綱に基づいて実施する事業に要する1(1)から(5)①及び2の経費並びに独立行政法人日本貿易振興機構が本要綱に基づいて公募・選定した事業実施者に対して補助する場合における当該補助に要する1(5)②及び③の経費</p> <p>1 輸出事業者サポート強化事業費</p> <p>(1) 商談会の開催及び海外見本市への出展等に係る経費</p>	<p>1 独立行政法人日本貿易振興機構</p>	<p>定額</p>	<p>1 経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間における経費の増減</p> <p>2 補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減</p>	<p>補助事業に要する経費の30%を超える増減</p> <p>1 事業メニューの新設又は廃止</p> <p>2 事業目的の変更</p>

区 分	事 業 内 容	経 費	補助事業者	補助率	重 要 な 変 更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	<p>援やセミナー等の輸出事業者サポート体制も強化する。</p> <p>(2) サンプル展示ショールーム設置等 独立行政法人日本貿易振興機構の海外事務所等に農林水産物・食品サンプルを常時展示し、バイヤー等がいつでも閲覧・試食等ができるサンプル展示ショールームを設置する。サンプル展示ショールーム等において、現地市場に精通した専門家を雇用し、バイヤーへの商品提案等、ニーズに基づいたプッシュ型の商談支援を行う。</p> <p>(3) バイヤー調査及び招へいを通じた通年オンライン商談組成 海外の地方在住や中小規模のバイヤーを発掘するための調査を実施し、当該バイヤーを独立行政法人日本貿易振興機構が出展する近隣の見本市等に招へい、更には独立行政法人日本貿易振興機構のオンラインカタログサイトにも登録することにより、更なる商談機会の提供に繋げる。</p> <p>(4) 日本産食材サポーター店や流通事業者等と連携した商談支援 マーケットインの発想の下で更なる輸出拡大を図るため、日本産食材サポーター店や流通事業者等と連携して、商流構築のための輸出重点品目の販路拡大に向けた商談を支援する。</p> <p>(5) 分野・テーマ別海外販路開拓支援の強化 次の①の事業を実施するとともに、</p>	<p>(2) サンプル展示ショールーム設置等に係る経費</p> <p>(3) バイヤー調査、招へい、オンライン商談組成に係る経費</p> <p>(4) 日本産食材サポーター店や流通事業者等と連携した商談支援にかかる経費</p> <p>(5) 分野・テーマ別海外販路開拓支援の強化に係る経費</p>			1 経費の欄に掲げる①及び②の経費の相互間に	

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	<p>①の事業により公募、採択した事業実施者に対して、②の事業に要する経費を補助する。</p> <p>①事業実施者の公募等 ②の事業の実施に当たり、外部有識者等により構成される公募選考会を設置し、事業実施者の公募、採択等を実施する。</p> <p>②分野・テーマ別に集中実施する販路開拓支援 早期に輸出拡大が期待される新規性や先進性を重視した分野・テーマについて、マーケットインの発想の下、事業実施者が実施するPR活動や販売促進活動を支援する。 なお、本支援は、輸出拡大実行戦略に掲げる輸出重点品目以外の品目を対象とする。</p> <p>2 日本食品海外プロモーションセンターによる輸出支援プラットフォームを活用した重点的・戦略的プロモーション強化事業 日本食品海外プロモーションセンターにおいて、農林水産省及び輸出支援プラットフォームとの協議の上で決定した品目及び国・地域に関し、品目団体等と連携を図った上で、PDCAサイクルを実行しながら、各市場に深く踏み込んだ戦略的プロモーション等の取組を実施する。</p> <p>(1) 戦略的プロモーションの重点実施 輸出重点品目及びその組み合わせを</p>	<p>①事業実施者の公募等に係る経費</p> <p>②事業実施者が行う分野・テーマ別のPR活動に係る経費</p> <p>③事業実施者が行う分野・テーマ別の販売促進活動に係る経費</p> <p>2 日本食品海外プロモーションセンターによる輸出支援プラットフォームを活用した重点的・戦略的プロモーション強化事業費</p> <p>(1) 戦略的プロモーションの重点実施に係る経費</p>		<p>定額</p> <p>定額</p> <p>1/2 以内</p> <p>定額</p>	<p>おけるそれぞれの経費の30%を超える増減</p> <p>経費の欄に掲げる(1)から(3)</p>	

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
(2) 品目団体 輸出力強化緊急支援事業	対象に、海外市場動向や輸出環境等を踏まえ、戦略的プロモーションの実行等に係る取組を行う。				までの経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減	
	<p>(2) 食文化発信の強化 日本食・食文化の魅力発信に係るデジタルコンテンツ等の制作・発信を積極的に行う。</p> <p>(3) 日本産食材サポーター店と連携したプロモーションの支援 日本産食材サポーター店と連携して、輸出重点品目の販路拡大に向けた日本産食材の需要喚起のためのプロモーションを実施する。</p> <p>輸出促進法により認定された品目団体等が戦略的に取り組む、オールジャパンでの業界共通課題の解決や販路拡大等を支援し、業界全体の輸出力強化を促進することで、日本産農林水産物・食品の輸出を拡大するため、以下の1から9までの取組を支援する。</p>	<p>(2) 食文化発信の強化に係る経費</p> <p>(3) 日本産食材サポーター店と連携したプロモーションの支援に係る経費</p> <p>補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費</p>	2 輸出・国際局長が別に定める者から公募により選定された団体	定額	補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減	<p>1 事業目的の変更</p> <p>2 経費の欄に掲げる1から9までの中から選択して行う取組の追加又は削除</p>
	<p>1 輸出ターゲット国・地域の市場・規制等調査 輸出拡大に向け重点的に取り組む国・地域の市場動向や当該国・地域への輸出に係る規制等の調査</p>	1 輸出ターゲット国・地域の市場調査・規制等調査に要する経費		定額		
	<p>2 海外等におけるジャパンプランドの確立 海外における日本産農林水産物・食品の認知度向上やブランド力向上に向けたオールジャパンのロゴ等の作成、商標等取得、偽装防止対策、プロモーション、</p>	2 海外等におけるジャパンプランドの確立に要する経費		定額		

区 分	事 業 内 容	経 費	補助事業者	補助率	重 要 な 変 更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	調査等					
	3 業界関係者共通の輸出に関する課題解決に向けた実証等 輸出拡大に向けた業界共通課題の解決に必要な調査、実証、研究、勉強会・検討会の開催、相談対応等	3 業界関係者共通の輸出に関する課題解決に向けた実証等に要する経費		定 額		
	4 海外等における販路開拓活動 輸出ターゲット国・地域等を対象に専門家等の配置、販売・宣伝実証、プロモーション、見本市等への出展、展示会の企画・実施、バイヤー招へい、商談会・セミナーの開催等	4 海外等における販路開拓活動に要する経費		定 額		
	5 相手国ニーズへの対応に必要な業界統一規格等の策定・普及等 (1) 業界統一規格等の策定・普及 業界統一規格やマニュアル等の策定に向けた検討会等の開催、調査、実証、普及に向けた研修会の実施、専門家による指導等 (2) 業界統一規格等の現場導入に向けた認証取得等支援 事業実施主体が策定した業界統一規格やマニュアル等を団体構成員が遵守するために取得する認証等に係る費用支援	5 相手国ニーズへの対応に必要な業界統一規格等の策定・普及等に要する次の経費 (1) 業界統一規格等の策定・普及に要する経費 (2) 業界統一規格等の現場導入に向けた認証取得等支援に要する経費		定 額		
	6 国内事業者の水平連携に向けた体制整備 産地間連携に向けた検討会等の開催、情報収集、データベースの構築等	6 国内事業者の水平連携に向けた体制整備に要する経費		定 額	1/2 以内	

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
(3) コメ・コメ加工品輸出推進緊急対策事業	7 輸出手続や商談等の専門家による支援試験 生産者、事業者等に対して、所管品目の輸出に係る手続や商談等の助言・支援を行う専門家等による相談窓口の設置等	7 輸出手続や商談等の専門家による支援に要する経費		定額		
	8 新規輸出国開拓に向けた調査及び輸送試験 新たに輸出拡大が見込まれる輸出先国に関する調査、検討会・研修会の開催、輸送・通関等の実証等	8 新規輸出国開拓に向けた調査及び輸送試験に要する経費		定額		
	9 任意のチェックオフ制度の導入に向けた体制整備・運用 任意のチェックオフ制度の導入にあたって必要な調査、検討会の開催、任意のチェックオフ制度の運用（資金の徴収・管理等）等	9 任意のチェックオフ制度の導入に向けた体制整備・運用に要する経費		定額		
	輸出拡大が見込まれる国・地域におけるコメ・コメ加工品の需要開拓を推進するため、以下の1から3までの取組を実施する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費	3 農産局長が別に定める者から公募により選定された団体	1 経費の欄に掲げる1から3までの経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減 2 補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減	1 事業メニューの新設又は廃止 2 事業目的の変更	
	1 戦略的輸出事業者と産地等が連携して取り組むコメ・コメ加工品の海外需要開拓及びプロモーション等の推進 農林水産物・食品輸出プロジェクト（以下「GF P」という。）に登録している戦略的輸出事業者（コメ海外市場拡大戦略プロジェクト（以下「KK P」という。）において、飛躍的な輸出目標を掲げ、コメ輸出の戦略的な拡大に取り組む輸出事業者として特定された者をい	1 戦略的輸出事業者と産地等が連携して取り組むコメ・コメ加工品の海外需要開拓及びプロモーション等の推進に係る経費 (1) 機器・備品の購入又は借上げに係る経費 (2) (1) 以外のコメ・コメ加工品の海外需要開拓及びプロモーション		1/2 以内 定額		

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
(4) インバウンド等への食文化発信等を通じた輸出促進支援事業	う。)と戦略的輸出基地（KKPにおいて、輸出産地としての取組方針を掲げ、輸出用米の安定的な生産に取り組む産地（法人・団体等）をいう。）等が連携して取り組むコメ・コメ加工品の海外需要開拓及びプロモーション等を推進する。	等の推進に係る経費				
	2 産地と新市場開拓用米の複数年契約に取り組む戦略的輸出事業者による海外需要開拓及びプロモーションの推進 GFPに登録している戦略的輸出事業者が産地と新市場開拓用米の複数年契約に取り組み、新市場開拓用米の安定供給を売りにして行う海外需要開拓及びプロモーションについて、戦略的輸出事業者の販売リスクを低減することにより推進する。	2 産地と新市場開拓用米の複数年契約に取り組む戦略的輸出事業者による海外需要開拓及びプロモーションの推進に係る経費		1/2 以内		
	3 海外の外食・中食事業者による日本産米の採用等の新たな取組等の推進 海外で事業を行う外食・中食事業者がGFPに登録している戦略的輸出事業者と連携して取り組む日本産米の採用等の新たな取組等を推進する。	3 海外の外食・中食事業者による日本産米の採用等の新たな取組等の推進に係る経費 (1) 機器・備品の購入又は借上げに係る経費 (2) (1) 以外の海外の外食・中食事業者による日本産米の採用等の新たな取組等の推進に係る経費		1/2 以内 定 額		
	日本産農林水産物・食品の輸出拡大を実現するため、日本食品海外プロモーションセンターを通じて、訪日外国人等を中心に日本食・食文化への関心を高めるとともに、海外において日本産農林水産物・食品の消費拡大を促進するためのプロモーションを実施する。	日本食品海外プロモーションセンターによる訪日外国人等を中心に実施するプロモーションに係る経費	4 独立行政法人日本貿易振興機構	定 額		

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
2 輸出ターゲット国における輸出支援体制の確立緊急対策事業						
(1) 海外向け戦略的サプライチェーン構築推進事業	海外市場の変化や新たな需要に対応し、我が国農林水産物・食品の輸出拡大等を図るため、複数事業者がコンソーシアムを形成して行う海外展開の取組の実証や、そのための機材の借り上げ・PR活動、コンテナリースや輸送、契約等におけるリーガル支援等に係る取組を支援する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費 1 コンテナリース、輸送（運賃・通関等の輸送に係るもの）に係る経費 2 上記1以外の経費	5 輸出・国際局長が別に定める者から公募により選定された団体	2/3 以内 1/2 以内	経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間における経費の増減	事業目的の変更
(2) 海外展開ハンズオン支援事業	食品事業者等の海外展開を加速化するため、中小企業が主体となって行う海外展開に向けた取組に対し、経営戦略・事業計画策定支援、情報提供、現地同行アドバイス等の支援をする。	独立行政法人中小企業基盤整備機構が本要綱に基づいて実施する事業に要する経費	6 独立行政法人中小企業基盤整備機構	定 額		事業目的の変更
(3) 水産物輸出拡大連携推進事業	1 輸出バリューチェーン改善検討事業 生産者、加工・流通業者、輸出関係事業者等が連携して、水産物の輸出の拡大に取り組む協議会（以下「輸出拡大連携協議会」という。）による既存の水産物流通のバリューチェーンについて輸出を確実に実施できるよう改善する取組の検討等を支援する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費 1 輸出バリューチェーン改善検討に要する経費	7 水産庁長官が別に定める者から公募により選定された団体	定 額	経費の欄に掲げる1の経費と2及び3の経費の相互間における増減	

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
3 グローバル産地づくり緊急対策事業 (1) G F P フラッグシップ輸出産地形成プロジェクト	2 輸出バリューチェーン改善システム等導入事業 1で検討した取組に必要なシステム・機器の整備、資材の導入等を支援する。	2 輸出バリューチェーン改善システム等導入に要する経費		1/2 以内		
	3 輸出バリューチェーン改善実証事業 1で検討した新商品の開発、販売ルートの開拓等の取組の効果・持続可能性を実証し、輸出拡大連携協議会による自律的な活動に円滑に移行させる取組を支援する。	3 輸出バリューチェーン改善実証に要する経費		1/2 以内		
	海外の規制や大ロット等のニーズに対応する輸出産地を形成するため、都道府県やJ Aが先導し都道府県版G F Pを組織化するとともに、輸出支援プラットフォーム等との連携の下、輸出重点品目の生産を大ロット化し、流通コスト低減も図る旗艦的な輸出産地のモデル形成を推進する以下の1及び2の取組への支援を実施する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する1の経費及び補助事業者が本要綱に基づいて公募し、採択した間接補助事業者に対して補助する場合における当該補助に要する2の経費	8 輸出・国際局長が別に定める者から公募により選定された団体		経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減	事業目的の変更
	1 プロジェクトの管理・運営 補助事業者は、2のプロジェクトを行う都道府県等の公募選考会の開催、本事業の管理運営、G F P等との連携によるプロジェクトのサポート、プロジェクトの進捗状況に係る意見交換等の企画運営、プロジェクト成果の調査分析・他地域への横展開等を図るための都道府県等との連携体制の構築や成果発表会を実施する。	1 プロジェクトの管理・運営に係る経費		定額		

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
(2) 加工食品 クラスター緊急対策支援事業	<p>2 GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの実施 補助事業者は、(1) 及び (2) の事業について、その要する経費を補助するものとする。</p> <p>(1) 都道府県版GFPの組織化による推進体制の構築 都道府県やJA系統の主導により、輸出商社やコンサル等の専門家も参画した都道府県における輸出推進体制(都道府県版GFP)を組織化するとともに、輸出支援プラットフォーム等と連携して、旗艦的な輸出産地のモデル構築に向けたプランの策定など産地の輸出戦略づくりを支援する。</p> <p>(2) 旗艦的な大ロット輸出産地のモデル構築 輸出重点品目を対象に、(1)の推進体制の下、マーケットインの発想で、規制や大ロット・周年供給等のニーズを踏まえた輸出向け生産への転換のための増し経費支援や、輸出向け生産のための規模拡大への支援、出口を見据えた商流構築への支援など、産地と海外が結びつき、旗艦的な大ロット輸出産地のモデルを形成する取組を支援する。</p>	<p>2 GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの実施に係る経費</p> <p>(1) 都道府県版GFPの組織化による推進体制の構築に係る経費</p> <p>(2) 旗艦的な大ロット輸出産地のモデル構築に係る経費</p>	9 大臣官房総括審議官(新事業・食品産業)が別に定める者か	定額	1 経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減	事業目的の変更
	<p>TPP11、日EU・EPA等及び日米貿易協定の発効により得られた輸出先国の関税撤廃等の成果を最大限活用するため、輸出拡大が具体的に見込まれる国・地域に対して、高品質な我が国加工食品の一層の輸出拡大につながる以下の1及び2の取組への支援を実施する。</p>	<p>補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する1の経費及び補助事業者が本要綱に基づいて公募し、採択した間接補助事業者に対して補助する場合における当該補助に要する2の経費</p>				

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	<p>1 連携体制の構築・調査等 補助事業者は、次の事業を行うものとする。 食品製造事業者等との連携体制の構築等、2の事業を実施する食品製造事業者等の公募選考会の開催・採択・補助金の交付・事業の進捗管理、専門家の派遣・助言、商談会等への参加、輸出に関する調査、輸出事業計画等の作成支援、優良事例の取りまとめ等を実施する。</p> <p>2 加工食品のPRや規制・ニーズに対応する商品の開発、施設整備等 補助事業者は、(1)から(2)までの事業について、その要する経費を事業実施者に補助するものとする。</p> <p>(1) 加工食品のPRや実証試験、輸出入人材育成等 新規開拓・商流拡大に向けた商品のPRや実証試験、また、規制・ニーズに対応する商品開発・改良、輸出入人材育成に係る費用等を支援する。</p> <p>(2) 輸出先国の規制等に適合した商品開発・改良のために必要な機械の改良・開発等 輸出先国の規制(食品添加物、容器・包装、表示等)に適合する商品又はニーズ等に対応する新商品の開発・改良、大ロット製造のために必要な施設整備等を支援する。</p>	<p>1 連携体制の構築・調査等に係る経費</p> <p>2 加工食品のPRや規制・ニーズに対応する商品の開発、施設整備等に係る経費</p> <p>(1) 加工食品のPRや実証試験、輸出入人材育成等に係る経費</p> <p>(2) 輸出先国の規制等に適合した商品開発・改良のために必要な機械の改良・開発等に係る経費</p>	<p>ら公募により選定された団体</p>	<p>定額</p> <p>1/2以内 食品製造事業者等を構成員とする団体においては、定額</p>	<p>2 補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減</p>	
(3) 青果物輸 出産地体	<p>輸出先国の植物検疫条件や残留農薬基準等の規制に対応した生産体制や品質保</p>	<p>補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費</p>	<p>10 農産局長が別に</p>		<p>1 経費の欄に掲げる1及び2の</p>	<p>1 事業メニューの新設又は廃止</p>

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
制強化加速化事業	持のための流通体制の強化、ロットの確保等に向けた複数産地と輸出事業者による取組を支援する。	1 複数産地と輸出事業者が連携する取組に係る経費 2 単独産地の取組に係る経費	定める者から公募により選定された団体	定額 (機器等のリースは1/2以内) 定額 (機器等のリースは1/2以内)	経費の相互間における経費の増減 2 補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減	2 事業目的の変更
(4) 国際認証取得等支援事業						
ア 有機JAS認証、GAP等認証取得等支援事業	農産物等の輸出拡大に向け、農業者等による有機JAS認証、GAP等認証（GLOBALG. A. P.、ASIAGAP、JGAP、MPS等）の取得等の支援を実施する。	補助事業者が本要綱に基づいて公募・選定した間接補助事業者に対して補助する場合における当該補助に要する次の経費、補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費 1 有機JAS認証取得等支援に係る経費 2 GAP等認証取得等支援に係る経費	11 農産局長が別に定める者から公募により選定された団体	定額 (機器等のリースに係る支援は1/2以内) 定額 (商談	経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減	1 事業メニューの新設又は廃止 2 事業目的の変更

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
イ GAPの取組を通じた生産工程管理ツールの活用支援事業	輸出先国により異なる輸入条件等に対応するため、農業者等によるGAPの取組を通じた生産工程管理ツールの導入等の支援を実施する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費 1 生産工程管理ツールの活用等に係る経費 2 生産工程管理ツールの使用方法等の指導等に係る経費	12 農産局長が別に定める者から公募により選定された団体	に係る支援は1/2以内) 定額		1 事業メニューの新設又は廃止 2 事業目的の変更
ウ 水産エコラベル認証取得支援事業	水産資源の持続的利用に対する国際的な関心への高まり等への対応を図るため、特に国際取引において、資源管理や環境配慮への取組を証明する水産エコラベル認証の取得促進に向け、審査の事前準備となるコンサルティングの実施に係る取組を支援する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する経費	13 水産庁長官が別に定める者から公募により選定された団体	定額		事業目的の変更
4 輸出環境整備緊急対策事業 (1) 輸出先国の規制に対応した畜水産物のモニタリング検査支援事業						

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	E U等向けの畜産物の輸出に必要な農薬、動物用医薬品等のモニタリング検査の実施を支援する。	E U等向けの畜産物の輸出に必要な農薬、動物用医薬品等のモニタリング検査に係る経費	14 輸出・国際局長が別に定める者から公募により選定された団体	定額		事業目的の変更
(2) インポートトレランス申請加速化支援事業	茶及び青果物の主な農薬について、輸出先国において、日本と同等の残留農薬基準を設定申請するための取組への支援を実施する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費 1 青果物に係る経費 2 茶に係る経費	15 農産局長が別に定める者から公募により選定された団体	定額	経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間における経費の増減	1 事業メニューの新設又は廃止 2 事業目的の変更
(3) コメ・コメ加工品規制対応緊急対策事業	輸出拡大が見込まれる国・地域におけるコメ・コメ加工品の需要開拓を推進するため、以下の1及び2の取組を実施する。 1 輸出先国における国内規制に対応するための取組等の推進 G F Pに登録しているK K Pの参加事業者が取り組む、中国向け精米輸出に必要なくん蒸や残留農薬検査等、コメ・コメ加工品の輸出に際して必要となる規制対応のための取組等を推進する。 2 海外実需者が求める要件等に対応するための認証取得等の推進 G F Pに登録しているK K Pの参加事業者が取り組むグローバルG A P等の国際認証取得等、海外実需者が求める要件等に対応するための取組等を推進	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費 1 輸出先国における国内規制に対応するための取組等の推進に係る経費 2 海外実需者が求める要件等に対応するための認証取得等の推進に係る経費	16 農産局長が別に定める者から公募により選定された団体	定額 1/2 以内	補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減	1 事業メニューの新設又は廃止 2 事業目的の変更

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
(4) 植物品種等海外流出防止緊急対策事業	<p>する。</p> <p>海外での品種登録が我が国農産物の輸出力強化につながる優良な植物品種について、登録出願手続きを迅速に進めるための経費への支援を実施する。</p>	<p>植物品種等海外流出防止対策コンソーシアムが本要綱に基づいて公募・選定した間接補助事業者に対して補助する場合における当該補助に要する次の経費</p> <p>海外出願促進対策に係る経費</p> <p>(1) 我が国農産物の輸出力強化のため重要な品種の海外への品種登録出願に係る経費</p> <p>(2) (1) 以外の海外への品種登録出願に係る経費</p>	17 植物品種等海外流出防止対策コンソーシアム	定額		<p>1 事業メニューの新設又は廃止</p> <p>2 事業目的の変更</p>
(5) 登録発行機関等の試験検査への監査・性能能力の強化支援事業	<p>登録発行機関及び登録認定機関である分析機関が実施する、輸出先国規制に対応した食品中の農薬や動物用医薬品などの成分・品質の試験検査について、独立行政法人農林水産消費安全技術センターが実施するこれら機関への監査や試験方法の性能確認に要する分析機器（定量核磁気共鳴装置）の整備のための経費を支援する。</p>	<p>定量核磁気共鳴装置システム導入に係る経費</p>	18 独立行政法人農林水産消費安全技術センター	定額		
5 輸出物流構築緊急対策事業	<p>農林水産物・食品の輸出拡大を図るため、経済的かつ安定的な輸出物流ネットワークを構築するため、以下の1及び2の取組への支援を実施する。</p> <p>1 調査・実証事業</p> <p>大ロット・長期間の輸出や、港湾及び地方空港を活用した輸出を可能とするため、輸出に向けた国内インフラ（港湾、空港、物流拠点等）の実態調査、輸出産地化・集団化に対応した低コスト・最適</p>	<p>補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費</p> <p>1 調査・実証に係る経費</p> <p>(1) 検討会の開催に係る経費</p> <p>(2) 調査・実証に係る経費</p>	19 大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）が別に定める者から公募により選定された団体	定額	<p>1 経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間における経費の増減</p> <p>2 経費の欄に掲げる1(1)及び1(2)の経費の相互間における経費の30%を</p>	

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
6 食品産業の国際競争力強化緊急対策事業 (1) 食品産業労働生産性向上技術導入実証事業	<p>輸送ルートの調査・実証等を支援する。</p> <p>2 設備・機器リース導入事業 輸出物流の構築に向けた、安定的かつ低コストなコールドチェーンを実現するためのリーファーコンテナ、業務の自動化・省人化に必要な設備・機器等のリース方式による導入を支援する。</p>	<p>2 設備・機器リース導入に係る経費</p>	20 大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）が別に定める者から公募により選定された団体	3/10 以内 HACCP、ISO22000 又は FSSC22000 へ対応する場合の設備・機器にあっては、1/2 以内	<p>3 補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減</p>	<p>導入設備の変更（能力に関する変更を含む。）</p>
	<p>農林水産物・食品の輸出拡大に向け、食品産業の生産性向上により国際競争力を強化するため、以下の1及び2の取組への支援を実施する。</p>	<p>補助事業者が本要綱に基づいて公募・選定した間接補助事業者に対して補助する場合における当該補助に要する1（1）及び（2）の経費、補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する1（3）及び2の経費</p>			<p>1 経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減</p>	<p>事業目的の変更</p>
	<p>1 生産性向上に向けた先端技術のモデル実証・改良事業 (1) モデル実証事業 AI、ロボット、IoT等を活用した食</p>	<p>1 生産性向上に向けた先端技術のモデル実証・改良に係る経費 (1) モデル実証に係る経費</p>			<p>2 補助率が異なる経費ごとの相互間における経費の増減</p>	<p>1/2 以内</p>

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	<p>品の製造・品質管理等の自動化、リモート化技術、更にはコロナ対策の更なる向上のための非接触型技術を実際の食品製造や飲食店等の現場にモデル的に導入、実証する取組を支援する。</p> <p>(2) 改良事業 AI、ロボット、IoT等を活用した自動化技術等を、業界の大宗を占める多くの中小企業が導入できるよう、低コスト化や小型化に関する改良の取組を支援する。</p> <p>(3) 審査委員会及び評価委員会の開催並びにモデル実証・改良事業の運営・管理 モデル実証事業実施主体及び改良事業実施主体の公募に係る審査等を行う審査委員会の開催及び当該事業の評価等を行う評価委員会を開催するとともに、モデル実証事業実施主体及び改良事業実施主体を選定するための公募、採択、補助金の交付、事業の進捗管理等を行う。</p> <p>2 横展開に向けた情報発信事業 1の取組等の成果を食品業界全体に普及させるため、動画の作成や研修会、シンポジウムの開催等の取組を支援する。</p>	<p>(2) 改良に係る経費</p> <p>(3) 審査委員会及び評価委員会の開催並びにモデル実証事業及び改良事業の運営・管理に係る経費</p> <p>2 横展開に向けた情報発信に係る経費</p>		<p>1/2 以内</p> <p>定 額</p> <p>定 額</p>		
(2) 加工食品 国際標準 化緊急対 策	加工食品の輸出に当たっては、輸出先国の規制に対応した乳化剤等の食品添加物、容器等を使用する必要があるため、以下に1及び2の取組への支援	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する1及び2(1)、(2)の経費並びに補助事業者が本要綱に基づいて公募し、採択した間接補助事業			経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間におけるそれぞれの経費の	事業目的の変更

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	を実施する。	者に対して補助する場合における当該補助に要する2(3)の経費			30%を超える増減	
	<p>1 連携体制の構築・調査等 補助事業者は、次の事業を行うものとする。 食品製造事業者等との連携体制の構築等、2(3)の事業を実施する食品製造事業者等の公募選考会の開催・採択・補助金の交付・事業の進捗管理、輸出に関する調査等を実施する。</p> <p>2 加工食品の国際標準化</p> <p>(1) 早見表作成等 主要な輸出先10ヶ国・地域について、用途、使用基準、規格の早見表の作成及び規制根拠の関連法規等を調査・整理する。</p> <p>(2) 研修会・勉強会の開催 食品添加物等の研修会や勉強会の開催等により知見を共有する。</p> <p>(3) 食品添加物・包材等の開発等 代替添加物・包材の開発及び必要な機器等、また、代替添加物・包材を使用した新商品の開発を支援する。</p>	<p>1 連携体制の構築・調査等に係る経費</p> <p>2 加工食品の国際標準化に係る経費</p> <p>(1) 早見表作成等に係る費用</p> <p>(2) 研修会・勉強会の開催等に係る費用</p> <p>(3) 食品添加物・包材等の開発等に係る費用</p>		<p>定額</p> <p>定額</p>		
(3) JAS・JFSの普及対策事業	輸出額目標5兆円の達成に必要な加工食品等の輸出拡大に向け、JAS規格及びJFS規格の更なる普及等を図るため、以下の1及び2の取組への支援を実施する。	補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する次の経費			1 経費の欄に掲げる1及び2の経費の相互間における経費の増減	事業目的の変更

区分	事業内容	経費	補助事業者	補助率	重要な変更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
(4) フードテックビジネス実証支援事業	1 有機JASの普及対策 有機JAS制度の運用改善効果の実証と更なる改善につなげるため、有機JAS認証取得等を支援するとともに、申請書類等のオンライン化の実証に向けてオンライン化の方向性・手法を検討するために必要な調査、検討会の開催等を支援する。	1 有機JASの普及対策に係る経費 (1) 有機JAS認証取得等に係る経費 (2) 申請書類等のオンライン化に向けた検討に係る経費 (3) 有機JAS規格認証取得等の対象事業者の選定等に係る経費		1/2 以内 定 額 定 額	2 経費の欄に掲げる1(1)から1(3)の経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減 3 経費の欄に掲げる2(1)及び2(2)の経費の相互間におけるそれぞれの経費の30%を超える増減	
	2 日本発食品安全マネジメント規格(JFS規格)の普及対策 (1) JFS規格取得プレステージ事業 食品事業者の衛生管理知識の向上を図り、JFS規格取得への導入となる各種研修の実施を支援する。 (2) JFS規格取得モデル実証事業 JFS規格取得のモデルを選定し、取得に要する費用を支援しつつ、取得ノウハウ等を情報発信し、横展開する取り組みを支援する。	2 日本発食品安全マネジメント規格の普及対策に係る経費 (1) JFS規格取得プレステージ事業に係る経費 (2) JFS規格取得モデル実証事業に係る経費 ア JFS規格取得等に係る経費 イ JFS規格取得等の対象事業者の選定等に係る経費 ウ JFS規格取得のノウハウ等の情報発信等に係る経費		定 額 1/2 以内 定 額 定 額		
	新たなフードテックビジネスを創出し、食に関する社会課題の解決や、国内外のニーズ等への対応を通じた食品産業の国際競争力の強化を図るため、以下の1及び2の取組への支援を実施する。	補助事業者が本要綱に基づいて公募・選定した間接補助事業者に対して補助する場合における当該補助に要する1(2)の経費、補助事業者が本要綱に基づいて実施する事業に要する1(1)及び2の経費			経費の欄に掲げる1(1)、1(2)及び2の経費の相互間における経費の30%を超える増減	1 事業目的の変更 2 事業の内容の追加又は削除 3 委託する事業の新設又は内容の変更
	1 ビジネスモデルの実証 (1) ビジネスモデル実証事業の運営・管	1 ビジネスモデルの実証に係る経費 (1) ビジネスモデル実証事業の運営・管		定 額		

区 分	事 業 内 容	経 費	補助事業者	補助率	重 要 な 変 更	
					経費の配分の変更	事業内容の変更
	<p>理等並びに審査委員会及び評価委員会の開催 ビジネスモデル実証事業実施主体を選定するための公募、採択、補助金の交付、事業の進捗管理等を行うとともに、ビジネスモデル実証事業実施主体の公募に係る審査等を行う審査委員会及びビジネスモデル実証事業の進捗の検証、評価等を行う評価委員会を開催する。</p> <p>(2) ビジネスモデル実証事業 国内の食品事業者、流通事業者、製造事業者、情報関連事業者、大学等の研究機関、食育・栄養関係団体等によるフードテック等を活用した新たな商品・サービスを生み出すビジネスモデルを実証する取組を支援する。</p> <p>2 横展開に向けた情報発信等 1 (2) の取組の実証成果をとりまとめたウェブページ等の成果物の作成、セミナーの開催等による情報発信等の取組を実施する。</p>	<p>管理等並びに審査委員会及び評価委員会の開催に係る経費</p> <p>(2) ビジネスモデル実証事業に係る経費</p> <p>2 横展開に向けた情報発信等に係る経費</p>		<p>1/2 以内</p> <p>定 額</p>		

別表 2 (第 6 及び第 9 関係)

農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業に係る事業実施計画調整者及び交付決定者

補助事業者の区分	事業実施計画調整者	交付決定者
戦略的輸出拡大サポート緊急対策事業の補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
品目団体輸出力強化緊急支援事業の補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
コメ・コメ加工品輸出推進緊急対策事業の補助事業者	農産局長	農林水産大臣
インバウンド等への食文化発信等を通じた輸出促進支援事業の補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
海外向け戦略的サプライチェーン構築推進事業の補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
海外展開ハンズオン支援事業の補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
水産物輸出拡大連携推進事業の補助事業者	水産庁長官	農林水産大臣
GFPフラッグシップ輸出産地形成プロジェクトの補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
加工食品クラスター緊急対策支援事業の補助事業者業	大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）	農林水産大臣
青果物輸出産地体制強化加速化事業の補助事業者	農産局長	農林水産大臣
国際認証取得等支援事業のうち有機JAS認証、GAP等認証取得等支援事業の補助事業者	農産局長	農林水産大臣
国際認証取得等支援事業のうちGAPの取組を通じた生産工程管理ツールの活用支援事業の補助事業者	農産局長	農林水産大臣
国際認証取得等支援事業のうち水産エコラベル認証取得支援事業の補助事業者	水産庁長官	農林水産大臣
輸出先国の規制に対応した畜水産物のモニタリング検査支援事業のうち畜産物モニタリング検査加速化支援事業の補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
インポートトレランス申請加速化支援事業の補助事業者	農産局長	農林水産大臣
コメ・コメ加工品規制対応緊急対策事業の補助事業者	農産局長	農林水産大臣
植物品種等海外流出防止緊急対策事業の補助事業者	輸出・国際局長	農林水産大臣
登録発行機関等の試験検査への監査・性能能力の強化支援事業の補助事業者	消費・安全局長	農林水産大臣
輸出物流構築緊急対策事業の補助事業者	大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）	農林水産大臣
食品産業労働生産性向上技術導入実証事業の補助事業者	大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）	農林水産大臣
加工食品国際標準化緊急対策の補助事業者	大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）	農林水産大臣
JAS・JFSの普及対策事業の補助事業者	大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）	農林水産大臣

補助事業者の区分	事業実施計画調整者	交付決定者
フードテックビジネス実証支援事業の補助事業者	大臣官房総括審議官（新事業・食品産業）	農林水産大臣

別記様式第1号（第9関係）

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
 (〇〇〇〇〇〇〇〇事業) 交付申請書

番 号
 年 月 日

(交付決定者) 殿

別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
 に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
 決定者を記載

所在地
 団体名
 代表者氏名

令和〇〇年度において、下記のとおり事業を実施したいので、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱第9の規定に基づき、〇〇〇円の交付を申請する。

記

- I 事業の目的
- II 事業の内容及び計画
- III 経費の配分及び負担区分

区 分	補助事業に要する 経費 (A) + (B)	負担区分		備 考
		国 庫 補助金 (A)	その他 (B)	
〇〇〇事業	円	円	円	
合 計				

(注1) 区分の欄には、補助事業者ごとに必要な事業を記載すること（農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱の別表1の区分の欄に掲げる区分及び経費の欄に掲げる経費を記載する。）。

(注2) 備考欄には、消費税仕入控除税額を減額した場合は「減額した金額〇〇〇円」を、同税額がない場合には「該当なし」を、同税額が明らかでない場合には「含税額」をそれぞれ記入すること。

「該当なし」の場合は、以下のうち該当するものにチェックを入れること。

- 免税事業者
- 簡易課税制度の適用を受ける者
- 地方公共団体の一般会計
- 地方公共団体の特別会計、消費税法別表第三に掲げる法人（公共法人、公益法人等）又は人格のない社団・財団であって、当該事業年度における補助金等の特定収入割合が5%超となることが確実に見込まれるもの

IV 補助事業の完了予定年月日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

V 添付書類

- 1 補助事業者の定款（定款のない団体にあつては、これに準ずるもの）
- 2 補助事業者の当該事業年度の事業計画及び収支予算（これらの定めのない団体にあつては、これらに準ずるもの）

(注1) 添付書類のうち、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱第6に基づき提出された事業実施計画の添付書類として提出したものは、添付を省略できることとし、省略するにあつては、提出済の資料の名称その他資料の特定に必要な情報を記載の上、当該資料と同じ旨を記載することとする。

(注2) 上記1・2の添付書類について、申請者のウェブサイトにおいて閲覧が可能な場合は、当該ウェブサイトのURLを記載することにより当該資料の添付を省略することができる。

契約に係る指名停止等に関する申立書

年 月 日

（間接）補助事業者 殿

所在地
商号又は名称
代表者氏名

当社は、貴殿発注の〇〇契約の競争参加又は申込みに当たって、当該契約の履行地域について、現在、農林水産省の機関から〇〇契約に係る指名停止の措置等を受けていないことを申し立てます。

また、この申立てが虚偽であることにより当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

（注1）〇〇には、「工事請負」、「物品・役務」のいずれかを記載すること。

（注2）この申立書において、農林水産省の機関とは、本省内局及び外局、施設等機関、地方支分部局並びに農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターをいう。

ただし、北海道にあっては国土交通省北海道開発局、沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局を含む。

（注3）「指名停止の措置等」には、指名停止の措置のほか、公正取引委員会から私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律に基づく排除措置命令又は課徴金納付命令を受けた者であって、その命令の同一事案において他者が農林水産省の機関から履行地域における指名停止措置を受けた場合の当該公正取引委員会からの命令を含む。

なお、当該命令を受けた日から、他者が受けた指名停止の期間を考慮した妥当な期間を経過した場合は、この限りでない。

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
（〇〇〇〇〇〇〇〇事業）変更等承認申請書

番 号
年 月 日

（交付決定者） 殿

（別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
決定者を記載）

所在地
団体名
代表者氏名

令和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇〇〇号をもって補助金の交付決定通知のあった事業について、下記のとおり〇〇（注1）したいので、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱第15の規定に基づき申請する。

記（注2）

（注1） 〇〇については、変更の場合は「変更」、中止の場合は「中止」、廃止の場合は「廃止」とする。

（注2） 記の記載要領は、別記様式第1号の記の様式に準ずるものとする。この場合において、同様式中「事業の目的」を「変更の理由」（中止の場合は「中止の理由」、廃止の場合は「廃止の理由」）と置き換え、補助金の交付決定により通知された事業の内容及び経費の配分と変更後（中止の場合は中止後、廃止の場合は廃止後）の事業の内容及び経費の配分とを容易に比較対照できるように変更部分を二段書きとし、変更前（中止又は廃止前）を括弧書で上段に記載すること。

なお、添付書類については、交付申請書に添付したもののうち、変更があったものに限り添付すること。（申請時以降変更のない場合は省略できる。）

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
 (〇〇〇〇〇〇〇〇事業) 遅延届出書

番 号
 年 月 日

(交付決定者) 殿

別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
 に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
 決定者を記載

所在地
 団体名
 代表者氏名

令和〇〇年〇月〇日付け〇〇第〇〇〇〇号をもって補助金の交付決定通知のあった事業について、
 下記の理由により（予定の期間内に完了しない／遂行が困難となった）ため、農林水産物・食品輸出
 促進緊急対策事業補助金交付等要綱第17の規定に基づき届け出ます。

記

- 1 補助事業が（予定の期間内に完了しない／遂行が困難となった）理由
- 2 補助事業の遂行状況

区 分	総事業費	事業の遂行状況				備 考
		〇年〇月〇日までに 完了したもの		〇年〇月〇日以降に 実施するもの		
		事 業 費	出来高比率	事 業 費	事業完了 予定年月日	
	円	円	%	円		

(注1) 括弧内は、該当するものを記載すること。

(注2) 補助事業の遂行状況は、届出時点において確認されている直近の遂行状況を記載することとし、
 「〇年〇月〇日以降に実施するもの」欄は、完了時期を延期して事業を継続したい場合のみ記載
 すること。

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
 （〇〇〇〇〇〇〇〇事業）事業遂行状況報告書

番 号
 年 月 日

（交付決定者） 殿

別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
 に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
 決定者を記載

所在地
 団体名
 代表者氏名

令和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇〇〇号をもって補助金の交付決定の通知のあった事業につ
 いて、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱第18の規定に基づき、その遂行状
 況を下記のとおり報告する。

記

区 分	総事業費	事業の遂行状況				備 考
		令和〇年〇月〇日までに 完了したもの		令和〇年〇月〇日以降に 実施するもの		
		事 業 費	出来高比率	事 業 費	事業完了 予定年月日	
	円	円	%	円		

（注1） 区分の欄には、別記様式第1号の記の「Ⅲ 経費の配分及び負担区分」に記載された事項
 について記載すること。

（注2） 「事業費」の欄には、事業の出来高を金額に換算した額を記載すること。

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
 (〇〇〇〇〇〇〇〇事業) 概算払請求書

番 号
 年 月 日

(交付決定者) 殿

別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
 に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
 決定者を記載

官 署 支 出 官 〇 〇 殿
 (第19第1項に定める官署支出官名を記入)

所在地
 団体名
 代表者氏名

令和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇〇〇号で補助金の交付決定の通知のあった事業について、農
 林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱第19の規定に基づき、概算払の請求をしたい
 ので、下記により金〇〇〇〇円を概算払によって交付されたく請求する。

また、併せて、令和〇〇年〇〇月〇〇日現在における遂行状況を下記のとおり報告する。

記

区 分	総事業費 円	(A) 国庫補助 金 円	(B) 既受領額		遂行状 況報告 〇月〇 日現在 の出来 高 %	(C) 今回請求額		(A) - ((B)+(C)) 残額		事業完 了予定 年月日	備 考
			金額 円	出来高 %		金額 円	〇月〇 日現在 の予定 出来高 %	金額 円	〇月〇 日まで の予定 出来高 %		
計											

(注1) 「区分」の欄には、別記様式第1号の記の「Ⅲ 経費の配分及び負担区分」に記載された事項
 について記載すること。

(注2) 下線部は、第18第1項ただし書による場合のみ記載することとし、記載しない場合は表中の
 遂行状況報告欄は空欄とすること。

(注3) 補助事業等により取得した財産等の確認を必要とする場合は、明細書を添付すること。

(注4) 補助事業等の実態に応じて、必要な事項を追加することができる。

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
 (〇〇〇〇〇〇〇〇事業) 実績報告書

番 号
 年 月 日

(交付決定者) 殿

別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
 に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
 決定者を記載

所在地
 団体名
 代表者氏名

令和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇〇〇号をもって補助金の交付決定の通知のあった事業につ
 いて、交付決定通知の内容に従い下記のとおり実施したので、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事
 業補助金交付等要綱第20第1項の規定により、その実績を報告する。

(また、併せて精算額として農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金〇〇〇円の交付を請求す
 る。)

記

- 1 事業の目的
- 2 事業の内容及び実績
- 3 経費の配分及び負担区分

区 分	補助事業に要した経費 (A) + (B)	負担区分		備 考
		国庫補助金 (A)	その他 (B)	
〇〇〇事業	円	円	円	
合 計				

(注1) 区分の欄には、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱の別表1の区分
 の欄に掲げる区分及び経費の欄に掲げる経費を記載する。

(注2) 備考欄には、消費税仕入控除税額を減額した場合は「減額した金額〇〇〇円」を、同税額

がない場合は「該当なし」を、同税額が明らかでない場合には「含税額」をそれぞれ記入すること。

4 事業の完了年月日 令和〇〇年〇〇月〇〇日

5 収支精算

(1) 収入の部

区 分	本年度精算額	本年度予算額	比 較 増 減		備考
			増	減	
1 国庫補助金	円	円	円	円	
2 その他					
合 計					

(2) 支出の部

区 分	本年度精算額	本年度予算額	比 較 増 減		備考
			増	減	
	円	円	円	円	
合 計					

(注) 区分の欄は、3 経費の配分及び負担区分の「区分」欄の事業名とその経費を記載する。

6 添付書類

(注1) この実績報告書は、当該報告に係る補助金交付申請書ごとに作成すること。

(注2) 括弧内は、実績報告と同時に補助金の交付を請求する場合に記載すること。

(注3) 間接補助事業者に対し間接補助金を交付している場合にあっては、記の5(2)の備考欄に、間接補助金の交付を完了した年月日を記載すること。

(注4) 添付書類については、支払経費ごとの内訳を記載した資料又は帳簿の写しを添付し、経費以外のものは、補助金交付申請書又は変更等承認申請書に添付したもののうち、変更があったものに限り添付すること。(経費以外のものについては、申請時以降変更のない場合は省略できる。)

(注5) 事業の実績が、交付申請の内容と同様のときは、「なお、事業の実績内容等は、交付申請の内容と同様であった。」(間接補助事業者に対し間接補助金を交付している場合は、「なお、事業の実績内容等は、交付申請の内容と同様であり、令和〇〇年〇〇月〇〇日に交付を完了した。’)旨加筆し、事業計画書の添付は省略すること。

(注6) 軽微な変更があったときは、交付決定を受けた事業計画書のコピーに変更箇所を加筆修正し添付すること。

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
 (〇〇〇〇〇〇〇〇事業) 年度終了実績報告書

番 号
 年 月 日

(交付決定者) 殿

別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
 に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
 決定者を記載

所在地
 団体名
 代表者氏名

令和〇〇年〇月〇日付け〇〇第〇〇号をもって補助金の交付決定通知のあった事業について、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱第20第2項の規定により、実績を下記のとおり報告する。

記

補助事業の実施状況

区 分	交付決定の内容		年度内実績		翌年度実施		完了予定 年月日
	補助事業に 要する経費 (A)	国庫補助金	(A)のう ち年度内 支出済額	概算払 受入済額	(A)のう ち未支出 額	翌年度 繰越額	
翌年度繰越分	円	円	円	円	円	円	
年度内完了分							
合 計							

(注1) 本様式は、年度内に補助事業が完了しなかった場合に提出するものとする（翌年度繰越を行った場合のほか、国庫債務負担行為にかかる場合や、補助金額全額を概算払で受入済だが予期せぬ事故により結果として年度内に完了しなかった場合を含む。）

(注2) 交付決定の内容欄は、年度内に軽微な変更を行っている場合は、軽微な変更後の金額によるものとし、軽微な変更前の金額を上段括弧で記載すること。

(注3) 繰越に際し、交付決定に係る補助事業を年度内完了に係るものと繰越に係るものに分割した場合は、区分して記載すること。

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金
（〇〇〇〇〇〇〇〇事業）の消費税仕入控除税額報告書

番 号
年 月 日

（交付決定者） 殿

別表2の左欄に掲げる補助事業者の区分
に応じ、それぞれ同表の右欄に掲げる交付
決定者を記載

所在地
団体名
代表者氏名

令和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇〇〇号をもって交付決定の通知があった農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金について、農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金交付等要綱第20第4項の規定に基づき、下記のとおり報告する。

記

- | | | |
|-----------------------------------|---|---|
| 1 適正化法第15条の補助金の額の確定額 | 金 | 円 |
| （令和〇〇年〇〇月〇〇日付け〇〇第〇〇〇〇号による額の確定通知額） | | |
| 2 補助金の確定時に減額した消費税仕入控除税額 | 金 | 円 |
| 3 消費税及び地方消費税の申告により確定した消費税仕入控除税額 | 金 | 円 |
| 4 補助金返還相当額（3の金額から2の金額を減じて得た額） | 金 | 円 |

（注） 記載内容の確認のため、以下の資料を添付すること。（補助事業に要した経費に係る消費税及び地方消費税相当額の全額について、補助金相当額を補助金の額から減額する場合は、（3）の資料を除き添付不要。）

なお、補助事業者が法人格を有しない組合等の場合は、すべての構成員分を添付すること。

（1）消費税確定申告書の写し（税務署受付済のもの）

- (2) 付表2「課税売上割合・控除対象仕入税額等の計算表」の写し
- (3) 3の金額の積算の内訳（人件費に通勤手当を含む場合は、その内訳を確認できる資料も併せて提出すること）
- (4) 補助事業者が消費税法第60条第4項に定める法人等である場合、同項に規定する特定収入の割合を確認できる資料

5 当該補助金に係る消費税仕入控除税額が明らかにならない場合、その状況を記載
[]

(注) 消費税及び地方消費税の確定申告が完了していない場合にあつては、申告予定時期も記載すること。

6 当該補助金に係る消費税仕入控除税額がない場合、その理由を記載
[]

(注) 記載内容の確認のため、以下の資料を添付すること。

なお、補助事業者が法人格を有しない組合等の場合は、すべての構成員分を添付すること。

- (1) 免税事業者の場合は、補助事業実施年度の前々年度に係る法人税（個人事業者の場合は所得税）確定申告書の写し（税務署受付済のもの）及び損益計算書等、売上高を確認できる資料
- (2) 新たに設立された法人であつて、かつ免税事業者の場合は、設立日、事業年度、事業開始日、事業開始日における資本金又は出資金の金額が証明できる書類など、免税事業者であることを確認できる資料
- (3) 簡易課税制度の適用を受ける事業者の場合は、補助事業実施年度における消費税確定申告書（簡易課税用）の写し（税務署受付済のもの）
- (4) 補助事業者が消費税法第60条第4項に定める法人等である場合は、同項に規定する特定収入の割合を確認できる資料

財 産 管 理 台 帳

補助事業者名 _____

事業実施年度		令和 年度			農林水産省所管補助金名										
事業 種類	事業の内容				工期		経費の区分				処分制限期間		処分の状況		摘要
	事業 種目	事業 主体	施設 区分	設置 場所	着工年 月 日	竣工年 月 日	総事業費	負担区分			耐用年数	処分制限 年 月 日	承認年 月 日	処分の内容	
								国庫補助金	都道府県費	その他					
							円	円	円	円					
	計														
	計														
	計														
合 計															

(注1) 処分制限年月日欄には、処分制限の終期を記入すること。

(注2) 処分の内容欄には、譲渡、交換、貸付け、担保提供等別に記入すること。

(注3) 摘要欄には、譲渡先、交換先、貸付先、抵当権の設定権者の名称又は補助金返還額を記入すること。

(注4) この書式により難しい場合には、処分制限期間欄及び処分の状況欄を含む他の書式をもって財産管理台帳に代えることができる。

別記様式第11号（第29及び第32関係）

令和〇〇年度

農林水産省所管

令和〇〇年度農林水産物・食品輸出促進緊急対策事業補助金調書

国			地方公共団体名										備考
補助事業名	交付決定の額	補助率	歳入			歳出							
			科目	予算現額	収入済額	科目	予算現額	うち国庫補助金相当額	支出済額	うち国庫補助金相当額	翌年度繰越額	うち国庫補助金相当額	
	円			円	円		円	円	円	円	円	円	
〇〇事業													
〇〇費													
〇〇費													
その他													

記載要領

- 「補助事業名」欄には、補助事業等の名称のほか、当該補助事業等に要する経費の配分を記載すること。この場合において、経費の配分の記載は、補助条件等によりその変更を禁止され、又はその変更につき承認を要するものとされている経費の配分のみを特記し、その他の経費の配分は、「その他」として一括記載すること。
- 「科目」欄には、歳入にあつては款、項、目及び節を、歳出にあつては款、項、及び目をそれぞれ記載すること。ただし、「補助事業名」欄に特記した経費に対応する地方公共団体の歳出予算の経費が目の内訳の経費であるときは、歳出の「科目」欄には、その目の内訳までを記載すること。
- 「予算現額」欄には、歳入にあつては当初予算額、追加更正予算額等に区分してそれぞれの額を、歳出にあつては当初予算額、追加更正予算額、予備費支出額、流用増減額等に区分してそれぞれの額を記載すること。
- 「備考」欄には、参考となるべき事項を適宜記載すること。
- 補助事業等に係る地方公共団体の歳出予算額の繰越（歳出予算額の一部又は全部を執行せず、その執行しなかった部分の額に相当する金額を新たに翌年度予算に計上する場合を含む。）が行われた場合における翌年度に行われる当該補助事業等に係る補助金等についての調書の作成は、本表に準じて別に作成すること。この場合には、歳入の「科目」欄に「前年度繰越金」の区分を設け、その「予算現額」及び「収入済額」の数字の下にそれぞれ国庫補助金額を内書（ ）すること。